

新潟県柏崎市

さくらい まさひろ
櫻井 雅浩 市長



わがまち 自慢

～市長室から～

【柏崎市情報】

〔面積〕
442.03km²
〔人口〕
84,617人(平成30年7月現在)
〔発電所データ〕
東京電力ホールディングス株
柏崎刈羽原子力発電所



日本海のロケーションを活かした「ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会」



番神海水浴場にある自然水族館の跡地。
昔ながらの磯遊びを楽しむ親子連れで賑わっている

「海のまち」柏崎

柏崎の海岸線は42kmにもおよび、15か所の海水浴場があります。なかには「日本の渚百選」や「快水浴場百選」に選定された海水浴場もあり、まさに海が自慢のまちです。

柏崎での海水浴場の開場の歴史は古く、1888年(明治21年)まで遡ります。日本海側では最も早い開場とされ、今年で130周年を迎えます。今年はその節目の年でもあるため、地域の方々とビーチに手作りのベンチを設置する「ビーチベンチプロジェクト」や、春や秋も楽しめるアクティビティを提供するイベント「ビーチピク

ニック」等を行っています。

なかでも、メインの取り組みの一つが、番神自然水族館体験です。現在、柏崎にはいわゆる箱物の「水族館」は存在しませんが、昭和初期には番神海水浴場にいけす式の自然水族館が存在し、市民に親しまれていました。今年、自然水族館跡地の岩場を活用して、インスタクターを配置し、子どもから大人までライフジャケットを着用の上で、箱メガネで海を覗いたり、網で魚を追いかけたりと、自然水族館を体験できるようにしました。子どもたちには、箱物の水族館にはないリアルな体験を通して柏崎の海を好きになってもらい

たいですね。

また、「越後三大花火大会」の一つに数えられている「ぎおん柏崎まつり 海の大花火大会」も大きな自慢の一つです。海岸というロケーションを活かした大パノラマでの花火の演出や、尺玉を中心とする超大型の花火が次々と打ち上がる大迫力の花火大会です。自身は、柏崎の花火が日本で一番だと思っています。

シティセールスで 柏崎の魅力を発信

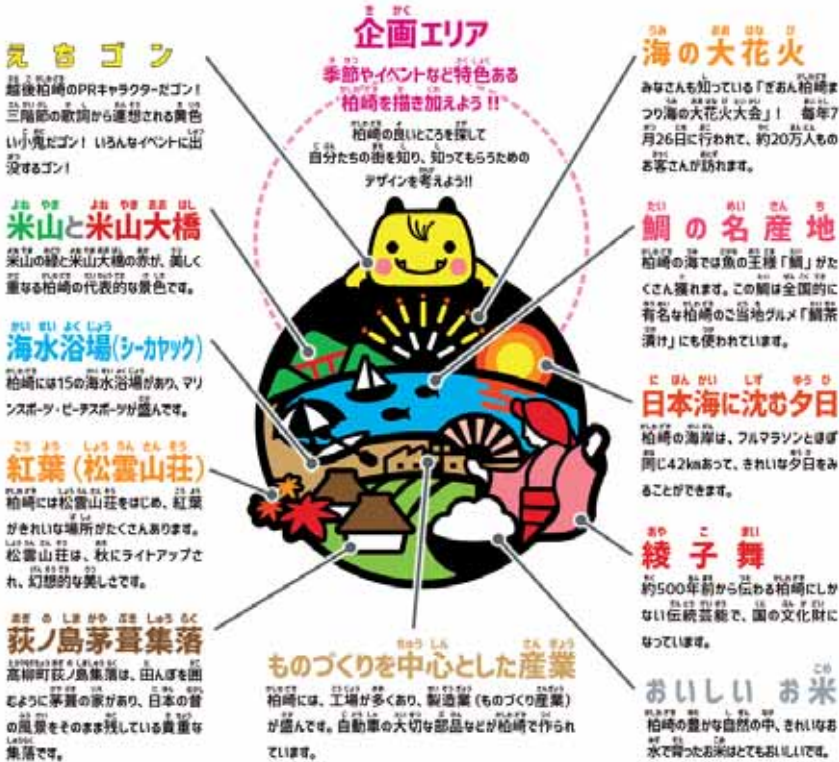
柏崎の自慢は海や花火だけではなくありません。食の面では、特産の鯛や、おいしいお米も自慢です。

また、山間部の高柳町には昔ながらの茅葺き屋根の家屋が残る環状かやぶき集落や棚田があり、日本の原風景を今に残す貴重な地域となっています。

このように柏崎は多くの魅力があるにも関わらず、大半の地方と同様に人口は減少し続けています。そこで、柏崎の魅力を広く発信していくことで、柏崎への誇りや愛着を醸成し、柏崎に戻ってきてくれる人、定住してくれる人を増やしたいという思いで、シティセールスを積極的に推進して

米山と米山大橋を望む





今も茅葺き家屋が残る高柳町荻ノ島の環状かやぶき集落



日本石油の製油所が立ち並ぶ当時の柏崎の様子



柏崎特産の鯛を使ったご当地グルメ「鯛茶漬け」

います。柏崎ファンクラブを発足し、会員向けのイベント開催や情報発信などに力を入れているなか、おかげさまで会員数は4,000人を超えました。

また、シティセールス推進の観点から、今秋は柏崎の新しいブランド米『米山プリンセス』を発売します。『米山プリンセス』は、良食味の基準の一つといわれる食味値が85点以上とすることや、有機100%肥料を施用することなどの認証基準を満たした「安全・安心」「おいしさ」にこだわったお米です。私は魚沼産コシヒカリをも上回る日本一のお米だと思っています。『米山プリンセス』をはじめとする農業のみならず、商業、工業の面でも柏崎の良さを広く発信することで、地域内外の皆さんに柏崎に対する誇りや愛着を思い出していきたいですね。

『脱炭素のまち』の実現に向けて

ご承知のとおり、柏崎には柏崎刈羽原子力発電所が立地し、首都圏への電力供給の役割を担ってきた「エネルギーのまち」でもあります。柏崎は日本の石油産業発祥の地でもあり、「エネルギーのまち」としての歴史はまさに石油からスタートしました。その後、1969年(昭和44年)に原子力発電所の誘致を決定し、柏崎は「原子力産業のまち」となりました。

さて、先般改定された国のエネルギー基本計画では、再生可能エネルギーが主力な電源として位置づけられ、原子力は引き続き重要なベースロード電源として位置づけられています。本年3月に策定した「柏崎市地域エネルギービジョン」では、当面は原子力発電所と共存するものの、徐々にその依存度を低減させ、将来的には再生可能エネルギーの導入が進んだ「脱炭素のまち」を目指すこととしています。例えば、洋上風力発電をはじめとした再生可能エネルギーを導入していくなかで、再生可能エネルギーの不安定さを蓄電池と水素エネルギーによってカバーするとともに、それらを柏崎の新たな産業として育てていきたいと考えています。

さらには、原子力発電、洋上風力発電、近隣地域にある水力発電

等の管理・供給等を含めた地域エネルギー会社を設立できないかと考えています。エネルギーを地域内に供給するだけでなく、地域内により安価に供給する仕組みづくりを地域エネルギー会社が担うことができれば、「自分たちの地域でエネルギーを作っているおかげで、電気が安く使えるんだな」という意識が地域の皆さんのなかに生まれ、それが原子力や再生可能エネルギーに対する理解に繋がるのではないのでしょうか。「エネルギーのまち」としてのメリットを地域の皆さんが実感でき、エネルギーに対する意識が自然に醸成されるまちを目指していきたいですね。

「少し変わる勇氣」で「洗練された田舎」を目指す

柏崎には、これまでご紹介したような魅力ある地域資源があり、「エネルギーのまち」としての基盤が形成されています。ですから、柏崎はこれらの地域資源を賢く活用することで豊かな田舎、つまり「洗練された田舎」を目指せると考えています。そしてそのためには、「少し変わる勇氣」が必要であり、少しずつでも変化し続けていくことが大事だと考えています。これからも、地域の皆さんと共に、「洗練された田舎」を目指して、まちづくりを進めていきます。(談)